

軍施設を造るため軍主導でできた市 鈴鹿市の「へそ（中心）」は**海軍工廠** 誕生の歴史を浅尾さんが講演

「鈴鹿市の発足と鈴鹿海軍工廠」と題して、2023年12月9日、ジェフリーすずかにて元中学教師で戦争遺跡研究者の浅尾悟さんが市制81周年の記念講演をしました。写真、年表などのスライドを見せながら、海軍工廠ができた経緯とその実像、大合併による鈴鹿市の誕生などについて、わかりやすく話され、50人近い参加者は引き込まれるように聴いていました。以下は講演の要約です。



講演する浅尾悟さん

志摩観光ホテルに残る施設

2016年、オバマ大統領らG7の伊勢志摩サミットが開かれた志摩観光ホテル（志摩市）に、鈴鹿海軍工廠にあった建物がいまでも残っている。「第一会議所」という尉官以上の工廠幹部らの会食・娯楽、宿泊施設だ。1951年、同ホテルに移築され、「ザクラブ」と名付けられている。



当時の第一会議所と移築された志摩観光ホテルのザクラブ

800軒から強制買収

海軍工廠とは海軍直属の軍需工場。全国に14カ所あった。日中戦争が拡大するなか、機銃、弾薬の需要が増し、東海地方では鈴鹿と豊川（愛知県）が候補地として上がった。豊川は国会議員が軍に働きかけて1937年、鈴鹿に先駆けてできた。アジア最大の軍需工場となり、終戦間際、大空襲を受けて多大な犠牲者を出している。

鈴鹿は 1942 年に設置が正式決定し、現場建設主任として 内田 亮之輔 大佐が赴任した。内田大佐が主導して村長など地域の有力者の了解をとり、地権者約 800 人から強制的に用地買収。翌 43 年 6 月、開廠式をした。工場長、斎尾 慶勝 技術少将は戦艦大和の大砲設計者だった。工場敷地は 281 万平方㍍、周辺施設、住宅などを含めると 575 万平方㍍にのぼる広大さ。

工場敷地の東側に機銃部、西側に火工部の工場が立ち並び、8千～1万人が働いた。工場周辺には職員用の官舎、工員とその家族が居住する工員住宅、滋賀、奈良、京都などから動員された学徒用の宿舍が建設された。学徒用の一つ、汲川原宿舍は放射状に4棟を配した刑務所のような造りだった。また、第一会議所は平田地区にできた官舎群の中にあつた。

お茶一杯だけの案内

戦後、海軍工場跡に旭ダウ（現旭化成）、倉毛紡績が進出した。続いて 1959 年夏、二輪車の工場用地を探して 本田 宗一郎 が視察に来た。杉本 龍造 市長が案内した。視察に来たら、夜の接待がふつうだったが、杉本市長はいっさいせず、番茶を一杯出ただけだった。本田はそれまでに浜松に建てようとはぼ決めていたのに、帰りの車中で鈴鹿に即決した。翌 60 年、本田技研鈴鹿製作所が建設された。

県内 7 番目の市

1942 年 12 月 1 日、2 町 12 村が合併して鈴鹿市が発足した。人口 52370 人。全国で 198 番目、県内では、津、四日市、宇治山田、松阪、桑名、上野に次ぐ 7 番目の市。伊勢新聞は「類例のない新市創造」と書いた。当時、へそ（中心）がない、という指摘に、内田大佐は「中心は海軍工場である」と答えた。軍事施設建設のため、軍主導でできた市の第一号。これが先例となり、半年後、愛知県春日井市と豊川市ができた。

進まぬ文化財指定

県内の戦争遺跡で北伊勢飛行場掩体（鈴鹿市三畑町）は国の登録有形文化財になっている。「登録」の場合は改変するのに許可は要らず、修復するときには公的補助がない。これにひきかえ、「指定文化財」は修復に許可が要り、補助金が出る。三重県内の戦争遺跡でこうした指定文化財になっているのは、4 件しかない。国、県はなく、いずれも市指定だ。

なぜ戦争遺跡の文化財指定が進まないのか。私見によれば、①戦争遺跡は年代が浅い。文化財は古いものだという思い込みがある ②負の遺産で、加害の側面が蒸し返されることが心配 ③文化庁、教育委員会が政権、政治家に忖度して消極姿勢 ④担当者の関心がなく、認識不足。④が一番大きい理由と思う。

鈴鹿市の戦争遺跡では、①北伊勢飛行場掩体 ②第一気象連隊射撃場 ③鈴鹿海軍工場試射場 ④鈴鹿海軍航空隊正門・番兵塔 ⑤鈴鹿陸軍飛行場掩体 ⑥鈴鹿海軍工場正門銘板、を文化財指定すべきだと考える。



北伊勢飛行場掩体

会場には浅尾さんが収集・所蔵する赤紙（召集令状）、千人針、慰問袋など戦争関連の品々、戦争遺跡の写真パネル、当時のポスターなどが展示されました。参加者から「これだけの資料をどれだけの年月をかけて収集されたか」と聞かれ、浅尾さんは「30年前から集め始めた。半分は海軍工廠に勤めていた人などからもらい、半分は買った」と答えていました。

（文責：竹内 宏行）



慰問袋、防空頭巾などが展示された



浅尾 悟 さんの講演に対し、たくさんの感想文が寄せられました。紹介します。

「鈴鹿市の歴史がよく分かった」

☆他市から嫁いで 50 余年になります。鈴鹿のことが今回の講演でとてもよくわかりました。戦争が終わって 78 年経つが、風化することなく語り継いでいくことの大切さを強く感じました。鈴鹿が戦争に深くかかわっていたことに驚きました。

☆このように詳しい年表とお話で、海軍工廠と鈴鹿市の歴史を知ることができ、大変貴重な会に参加できたこと、嬉しく思います。

☆以前から鈴鹿市の歴史を知りたかったので、知ることができました。戦争の武器を国民が作っていた、作らされた。戦争については、被害者の声ばかり聞いていましたが、加害者でもあったということを知り、ビックリしました。国によってなにもかも決められて自分たちの意見も言えなかったんですね。

☆6年生の子どもたちと一緒に何度か先生のお話を伺いました。わたしはその時初めて鈴鹿市の成り立ちを知り、大変ショックを受けました。でも、戦争をきっかけにできたことを子どもたちに伝えていかなくてはいけないと思いました。それ以来、先生にいただいた資料を使わせてもらいながら、6年生を担当するたびに伝えてきました。社会科の学習で戦争について学ぶとき、身近なこととして捉えることが少しはできたのではないかと思います。成り立ちを知ったうえで、鈴鹿の発展にはたした役割も知り、鈴鹿市の未来を考えていってほしい。私自身、鈴鹿市が大好きです。鈴鹿市がよりよい市になってほしいと思っています。

「平和への大きなツール」

☆貴重なお話を分かりやすく聴かせて頂きました。戦後沢山残された傷跡も今ではすっかりと整えられ記憶も消え去ってゆくのみで、今手を打たないと後世の代に伝えられないと思います。皆さんの活動をととても大事なことと思います。

☆文化財の大切さ、戦争遺跡について知らないことばかり。平和への大きなツールになるように思います。

☆知っている話、知らなかった話、様々な話をわかりやすく解説していただき、とても勉強になりました。何度聞いても新鮮さを感じます。知っていることでも知らなかった話とつながり、また、違う視点からの話だったり、歴史をととても深いと感じました。

☆ものすごくわかりやすいお話で、のめりこみました。私は四日市市で生まれ、四日市公害を経験しているので、鈴鹿が戦闘機生産コンビナートだったというお話が心に残りました。

☆鈴鹿市のことがよくわかり、また、もっと知りたいと思いました。他府県の方に鈴鹿のことを聞かれても歴史を知らず、伝えられませんでした。これからは、話をすることが出来ます。

「赤紙を直近に見ました」

☆聴きやすい声で、判りやすく説明されて、詳しく知らない私にも長時間、興味深く最後まで聴くことが出来ました。コレクションの中で、いわゆる赤紙というものを、この目で直近に見ました。それこそ、朝ドラ『ブギウギ』の六郎を思い浮かべてしまいました。私は結婚して平田一丁目に住むことになりましたが、元の家は、二軒続きの海軍工廠（社宅）だと聞いております。

☆戦争遺跡の指定に向けて、講師が言われた『市民の関心、行動に移す』この言葉の実践を切に願っています。

☆戦争遺跡を保存して、次の時代の人達に伝えよう、日本の若い人達を、戦争の無い平和な未来につなげよう。良く解かりますが、最近のテレビ報道では、AI人工知能無人兵器が攻撃してくるそうです。過去の戦争とは全く違います。ハイテク兵器が襲ってきます。核兵器を使えば、人類は滅亡します。核兵器の報復合戦ともなれば、地球は破滅します。非常に不安です。私達高齢者は80年近く戦争がない平和な時代を生きて来ました。奇跡です。先輩の兵隊経験者は『アメリカに魂を抜かれてしまった』と言っていますが、それで良かったと想います。世界の指導者は、最近気が狂い始めたように感じます。若い人達は、これから将来どんな紛争に巻き込まれるか解かりません。子供達若者の未来がととても心配です。

第7回 桜の森公園 春まつり 3月30日に開催

「桜の森公園 春まつり ～広がれ平和の輪～」は3月30日（土）～雨天順延～に開きます。コロナ禍で休んだ2回を数えると、7回目となります。この場所には鈴鹿海軍航空隊があって、若者たちが訓練し、飛び立っていきました。その歴史を風化させてはならないと、この催しをしています。誘い合わせて、ぜひいらしてください。



「歴史に学ぶ」のコーナーでは、防災倉庫東側の壁面に展示した写真パネルなどを見もらいながら、市内各所にある戦争遺跡の解説をします。続いてモニュメント {地・天}のある戦争遺跡ゾーンに移動して番兵塔や航空隊正門を見学。さらに巨大格納庫があった住宅団地まで歩きます。

「空に遊ぶ」は自由広場で。ぐにゃぐにゃ凧を手作りしてもらって飛ばします。竹とんぼ、シャボン玉もあります。今回から日本リーグに参戦する三重バイオレットアイリスの選手たちに来てもらって、ハンドボールのゴール入れを楽しんでもらいます。



「ライブ」はキッズダンス「すーぱーはっぴーきっず」がオープニングで演技。鈴鹿医療科学大学吹奏楽部、ぶらむソーダ、にらいかない、じみまるなどが演奏したり、歌ったり、踊ったりします。

「飲食屋台村」は唐揚げ、五平餅、和菓子、パンなど。

公園駐車場が満車の場合は、隣の鈴鹿医療科学大学の駐車場を借りておりますので利用してください。花日和になることを期待しています。（文責：竹内 宏行）

先生たちが戦争遺跡を見学 12月6日に第一氣象連隊跡地を

鈴鹿市教育研究会・平和教育班の先生6人が12月6日、戦争遺跡研究者、岩脇彰さんの案内で、第一氣象連隊のあった石薬師地区の戦争遺跡を見学した。最近見つかった本部前の円型池跡、建物のコンクリート基礎のほか、2か所の射撃場を見て回った。

陸軍第一気象連隊の戦争遺跡

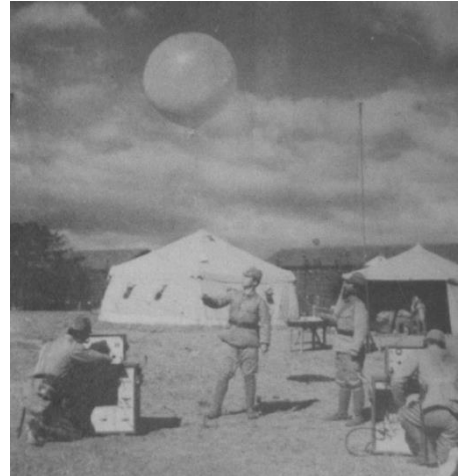
○陸軍第一気象連隊とは

気象連隊は気象観測をする気象兵を養成する部隊です。

アジア太平洋戦争直前の1941年10月1日に各務原（岐阜）で作られた第一航空教育隊が、1942年4月25日に第一気象連隊として独立。そして1942年11月20日に、石薬師にできた新しい部隊地に移動。石薬師での正式な開隊日は1942年12月1日。鈴鹿市が誕生した年月日と同じなので驚きます。

戦争当時、気象観測ができたのは陸海軍と気象台だけでした。気象データが傍受されるのを防ぐため、ラジオの天気予報は1941年12月7日から敗戦までなくなります。明日の天気や、台風の情報がわからず、市民はとても困ったでしょう。

第一気象連隊は石薬師ですが、第二～第四気象連隊はどこにあったでしょう。第二は「満洲国」の首都新京（今の長春）、第三はシンガポール、第四が南京です。第二～第四気象連隊へは、第一気象連隊を出た気象兵が派遣されているので、気象連隊で言うとアジアの中心が石薬師です。



第一気象連隊での訓練風景

○新確認が続く戦争遺跡

これまで知られていた戦争遺跡は「第一気象連隊碑」だけでした。あの碑があるので、あそこが気象連隊の正門と誤解されている方が多いですが、実は連隊の裏手に当たる西門です。

石薬師には何も残っていないと考えられていましたが、地域や会員の方からの情報によって、たくさんの戦争遺跡を確認することができました。簡単にご紹介します。

①連隊本部の円型池

連隊本部の営門は現在の「三恵工業」の南側交差点にあり、そこからL字型の道路に沿って連隊本部に入って来ました。陸軍は、連隊本部の前に装飾と防火用水を兼ねた円型池を作りますが、そのコンクリート壁が一部残っています。

写真の男性の畑がすぐ近くにありますが、その畑の下にはコンクリート基礎が残っているので、トラクターの刃が壊れるそうです。その基礎は気象観測所だと考えられ、地下には多くの戦争遺跡が埋没していることがわかります。



一部残っている円型池の外側の壁

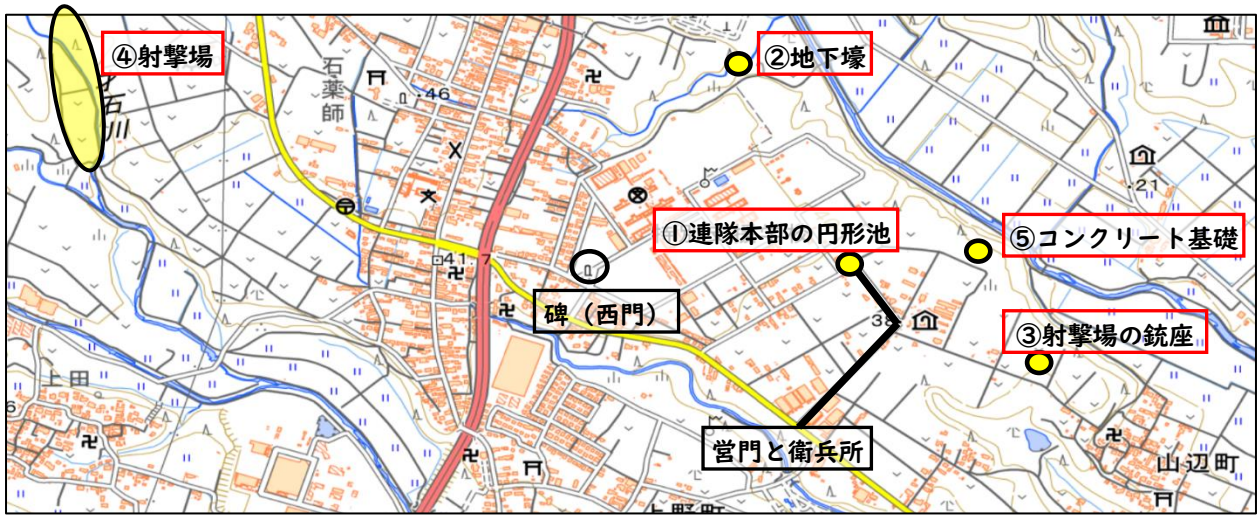
②地下壕

気象連隊北部の斜面にコの字型の地下壕が残っています。

入り口からの奥行は10m、内部の長さは11m、高さが2mあり、内部は一部が崩落していますが、保存状態の良い地下壕です。

民間の防空壕にしては規模が大きく、気象連隊に隣接して





いることから、気象連隊の地下壕と考えられます。用途は不明ですが、地下壕から遠くない場所に気象連隊の将校集会所があったので、将校用の防空壕の可能性もあります。

③射撃場 (80m) の銃座

鈴鹿市山辺町にあり、立って射撃するためのコンクリート製銃座が4基残っています。この射撃場は的までが80mほどで、近距離で基礎的な射撃訓練をしたと考えられます。的などは確認できていません。

この場所は鈴鹿市の都市計画で道路が建設される予定になっていて、破壊される危険があります。



山辺町の銃座

④射撃場 (300m) の銃座、的の基礎、監的壕

もう一つ射撃場が石薬師町にあります。こちらは的までの距離が300mある大規模なものです。伏せて射撃するためのコンクリート台座が8基、的のコンクリート基礎が2基（あと6基は土中）、的に当たったかどうかを見るための監的壕もコンクリート製で残っています。周囲は深い谷で囲まれ、射撃場全体が残っているのは大変貴重です。将来は「射撃場公園」になればと思っています。



石薬師町の銃座



的のコンクリート基礎



監的壕

また、⑤の場所には建物のコンクリート基礎が残っています。現在確認されているのは1棟ですが、当時の航空写真では3棟建っているなので、さらに見つかる可能性があります。弾薬庫の可能性もあるので、今冬に浅尾悟さんが測量される予定です。この場所には「陸軍用地」の石柱が立っていましたが、現在は別の場所で保管されています。

(文責：岩脇 彰)

おしらせ

いつでもどこでも個別に対応します ～戦争遺跡見学会～

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会では、会員及び一般の皆様にも市内にある戦争遺跡の見学会を随時開催しています。

- ① 徒歩または車をご用意ください。
- ② ご希望の戦争遺跡、集合する時間と場所を決めます。
- ③ 当会のガイドがご案内します。

参加される人数は何人でも構いません。お一人でも大丈夫です。学校やコミュニティ単位の学習にも対応します。

ご都合のよい日時でご相談下さい。ただし、当会のガイドが対応できない日もありますので、ご了承下さい。日程が重なったときは先着順に対応いたします。

申し込みは竹内（090-2772-1476 ta818hi@mecha.ne.jp）まで

当会の最新情報を事務局から会員の皆様にメール配信にてお送りします。会員の皆様には大変お手数をおかけしますが、上記 竹内のアドレスにメールアドレスをお知らせください。
※頂いた情報は、本件の目的以外の利用は致しません。

当会のホームページ及び会報のQRコードを作成しました。
お手持ちの携帯電話ならびにスマートフォンで下のQRコードを読み取ってください。



ホームページ



鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会



会報

▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△▼△

発行

鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会

代表

竹内 宏行・中森 成行

〒510-0254 鈴鹿市寺家 1-2-47

電話 059-388-6508

Mail ta818hi@mecha.ne.jp

△▼△▼△▼▼△▼△▼△▼△▼△